**議会答弁ロールプレイ①（フィクション）　　子どもの体力向上**

**登場人物：**行政管理職、議員（厳しく妥当性を追求）

**議　　　題：**小中学生の体力向上施策の妥当性と効果検証

議員の質疑

議員:  
「本特別区では、近年、子どもの体力低下が問題となっており、教育委員会は体育授業の質向上、運動機会の増加、家庭・地域との連携を強化する施策を展開しています。しかし、私はその施策の妥当性と実効性に強い疑問を抱いています。」

「まず、基本的な点を確認しますが、本区の子どもの体力水準は、全国平均と比較してどのような状況にあるのか、データを基にご説明ください。」

行政管理職の答弁

行政管理職:  
「はい。東京都特別区では、毎年『全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）』の結果を基に、区内児童の体力水準を分析しています。令和5年度のデータによりますと、本区の小中学生の体力合計点は全国平均を3.5ポイント下回っており、特に持久力や瞬発力の低下が顕著に見られます。」

「また、本区独自の調査結果では、小学生の1日当たりの運動時間が全国平均より約20分短いことも明らかになっています。このため、教育委員会としては、学校内外の運動機会を増やし、子どもの体力向上を図る必要があると判断しました。」

議員の追及

議員:  
「全国平均を下回る水準であることは認識しました。しかし、その対策として行っている\*\*『体育授業の質向上と時間の確保』が本当に有効な手段なのか\*\*、明確なエビデンスをもって説明してください。」

「例えば、年間の体育授業時数を増やした結果、具体的にどのような体力向上効果が得られたのか。施策の費用対効果を考慮しないまま『とりあえず体育の時間を増やせばよい』という発想に陥っているのではないかと危惧しています。」

行政管理職の答弁

行政管理職:  
「ご指摘の通り、体育授業の時間を単純に増やすだけでは、体力向上にはつながらない可能性もあります。しかし、本区では\*\*『質の高い体育指導』\*\*を重視し、単なる時数の増加ではなく、専門指導員の配置や授業内容の見直しを組み合わせた施策を実施しております。」

「例えば、区内10校のモデル校において、外部の専門家による体育授業の指導法改革を行い、その結果、持久走の平均記録が8.2%向上し、体力テストの結果でも全国平均との差が1.4ポイント縮小しました。また、対象校の児童・生徒へのアンケート調査では、『体育の授業が楽しい』と回答した割合が62%から85%に上昇するなど、意欲面での変化も見られます。」

「したがって、本施策は一定の効果を示しており、今後も他の学校への展開を進めることで、より広範な効果を期待できると考えております。」

議員のさらなる追及

議員:  
「なるほど、モデル校における一部の成果は認めます。しかし、それをもって『本区全体で有効である』と結論づけるのは安易ではないですか？」

「たとえば、モデル校以外の学校では、教員の指導スキルがばらついている可能性がある。全ての学校で同様の効果が得られる保証はありますか？また、指導員の配置にはどの程度のコストがかかるのか、財政負担と持続可能性についても詳しくご説明ください。」

行政管理職の答弁

行政管理職:  
「ご指摘の通り、モデル校と一般校の間で格差が生じる可能性は認識しております。そのため、本区ではすべての学校の体育指導力を向上させるための研修を並行して実施しております。」

「令和6年度より、全校において体育専科の教員研修を強化し、指導法の標準化を進めております。また、外部指導員の配置については、現在のモデル校の拡大に向けて段階的に予算を確保し、令和8年度までに全校導入を目指します。」

「コスト面について申し上げますと、1校あたり年間の外部指導員の配置費用は約350万円、総額では約1億4000万円の予算を計上しております。これは、本区の教育予算全体の約1.2%に相当し、持続可能な範囲内であると判断しております。」

「また、他自治体の事例では、運動機会の増加によって児童の健康指標が改善し、将来的な医療費抑制につながる可能性も示唆されております。本区としても、単年度のコストだけでなく、長期的な社会的コスト削減の観点から施策を評価する必要があると考えております。」

議員の総括と提言

議員:  
「説明は理解しました。しかし、私は行政がより客観的なデータを活用し、継続的な効果検証を行うべきであると考えます。」

「本区が進める施策が確実に成果を上げているのか、単なる自己評価に終始していないか、独立した第三者機関による評価を組み込むことも必要ではないでしょうか？」

「また、特に家庭や地域との連携策については、まだ具体的な数値目標が不明確です。体育授業の充実だけでなく、学校外の運動機会を増やすための施策をより具体化し、子どもが『自ら運動したくなる』仕組みを作ることが、真の体力向上につながるのではないでしょうか？」

行政管理職の最終答弁

行政管理職:  
「貴重なご指摘をありがとうございます。第三者機関による効果検証については、令和7年度より、都立大学のスポーツ科学研究センターと連携し、外部評価を実施する予定です。」

「また、家庭・地域との連携策についても、保護者向けの体力向上啓発や地域スポーツクラブとの協力体制強化など、より具体的な施策を今後の計画に盛り込んでまいります。」

「本区としては、子どもたちが『運動を楽しむ文化』を根付かせるため、引き続き全力で取り組んでまいります。」

**議会答弁ロールプレイ②（フィクション）　　子どもの体力向上**

登場人物：行政管理職、議員（厳しく妥当性を追求）

議　　　題：学校体育・運動推進施策の実効性と公平性

**議員:**  
「本区では、近年、体育授業の充実や学校内外の運動機会の確保を進めています。しかし、**この施策がすべての児童・生徒に公平に行き渡っているのか、大きな疑問があります。**」

「例えば、特定の学校では専門指導員が配置され、運動設備も充実している一方で、一部の学校では十分なサポートが受けられていないのではないでしょうか？」

「本区の施策が、**学校や地域ごとに格差を生んでいる可能性**について、どのように評価されているのか、具体的なデータを基に説明してください。」

**行政管理職の答弁**

**行政管理職:**  
「ご指摘の通り、本区内でも学校の設備状況や体育指導の質には一定のばらつきが存在することを認識しております。」

「例えば、体育専科教員の配置率について、本年度（令和6年度）のデータでは、**全小学校のうち約65%の学校には体育専科教員が配置されておりますが、35%の学校では他教科担当教員が体育を兼務**している状況です。」

「また、運動施設についても、**校庭の面積が狭い学校や体育館の使用頻度が高い学校では、児童生徒が十分に運動できる環境が整っていない**ケースが見られます。」

「これらの課題を解決するために、本区では、**専門指導員の派遣枠の拡大**や、**近隣の公園・スポーツ施設を活用するプログラム**の導入を進めており、来年度（令和7年度）から段階的に支援対象校を増やしていく方針です。」

**議員の追及**

**議員:**  
「体育専科教員の配置率が65%ということは、まだ3割以上の学校では、専門的な指導を受けられない児童がいるということですね。」

「さらに、校庭や体育館の広さの問題も、学校によって大きく異なるとなると、**この施策が全児童に対して公平に行われているとは到底言えません。**」

「施策の公平性を担保するために、すべての学校で一定の水準を満たすための目標値は設定しているのですか？また、どのようなロードマップで格差を是正する計画なのでしょうか？」

**行政管理職の答弁**

**行政管理職:**  
「はい。ご指摘の通り、体育教育の質をすべての学校で均一化することは重要な課題であると認識しております。」

「現在、本区では、**令和8年度までに全小学校で体育専科教員の配置率を85%以上に引き上げる**ことを目標にしており、そのための教員研修と人材確保を進めております。」

「また、設備の格差については、**校庭の狭い学校向けに、近隣の区立スポーツ施設を授業に活用する制度を拡充**し、体育館の利用回数を確保することで、一定の公平性を保つ方針です。」

「加えて、全学校で共通の運動プログラムを実施することで、**子どもたちがどの学校に通っていても、同じレベルの運動機会を得られるよう調整**を行っております。」

**議員のさらなる追及**

**議員:**  
「なるほど。施策の方向性は理解しました。しかし、私は**このような対策がすぐに実行できるのか、大きな疑問**を感じます。」

「例えば、体育専科教員の配置を85%に引き上げるとのことですが、**そもそも体育専科の教員が十分に確保できるのですか？**」

「教員不足が全国的に問題となる中で、本区がどのように人材を確保するのか、具体的な戦略を教えてください。」

**行政管理職の答弁**

**行政管理職:**  
「教員の確保については、非常に重要な課題であり、現在、以下の施策を実施しております。」

「1. **退職教員やスポーツ指導者の再雇用** – 既存の人材を活用し、短時間勤務制度を設けることで、体育専科教員の補充を進めます。」  
「2. **大学との連携による人材育成** – 都内の教員養成大学と連携し、体育指導に特化した短期研修を設け、新任教員の即戦力化を図ります。」  
「3. **民間スポーツ指導者の活用** – 公認スポーツコーチやプロスポーツクラブと連携し、外部指導者を授業に招くことで、指導の専門性を確保します。」

「この3本柱で、令和8年度までに85%の配置率達成を目指しております。」

**議員の総括と提言**

**議員:**  
「方向性は理解しましたが、計画の実行可能性については引き続き注視する必要があります。」

「また、専門指導者の確保だけでなく、**既存の教員が体育指導のスキルを向上させる仕組みも強化すべき**ではないでしょうか？」

「具体的には、全教員向けに**体育指導の研修義務化**を検討するべきです。また、ICTを活用し、**映像教材やオンライン講習**を導入することで、時間的制約のある教員でもスキルアップできる環境を整えるべきです。」

「さらに、体育館や運動場の利用調整についても、単に区立スポーツ施設の活用を促すだけでは不十分です。民間のスポーツクラブやジムとの連携、地域住民が参加できるプログラムの拡充など、柔軟な施策を検討してください。」

「以上の点を踏まえ、**実施計画のさらなる具体化を求めます。**」

**行政管理職の最終答弁**

**行政管理職:**  
「ご提案、誠にありがとうございます。教員のスキル向上については、確かに重要な課題であり、ICTを活用した遠隔研修の導入など、より柔軟な施策を検討してまいります。」

「また、体育館や運動場の活用についても、民間施設や地域クラブとの連携を強化し、より多様な運動機会を提供できるよう調整いたします。」

「引き続き、本区のすべての児童・生徒が公平に体育・運動の機会を得られるよう、全力で取り組んでまいります。」